

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902660		
法人名	有限会社こばやしさんち		
事業所名	グループホームこばやしさんち		
所在地	旭川市東光16条6丁目2-19		
自己評価作成日	平成22年7月7日	評価結果市町村受理日	平成22年8月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念に基づいて利用者様がその人らしく生きられるように、最期の時まで自分で食事を食べ、トイレで排泄していただけるように努めている。
 ・掃除や食事の支度には、利用者様が食材を洗ったり、刻んだり、盛り付け、味付けなど、その人が出来る部分で参加していただいている。
 ・外出する機会を多くし、ドライブや施設見学、外食、日帰り温泉など少人数を活かし計画的に実施している。
 ・GH職員同士の連携がとても良く、お互いに協力体制が出来て居る事が利用者様の生活に楽しみを作ってくれていると思う。(畑作りや外食)
 ・今計画して居る事は、リハビリや社会との触れ合いの部分で近くの公園のゴミ拾いを計画中である。(歩けない人も車椅子で参加出来るような取り組みを考えている)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172902660&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 22 年 7 月 21 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者は高齢者福祉と地域貢献に強い思いがあり、制度開始以前から憩いの場作りや福祉への関わりを続けています。ホームは6名の入居と小規模ではありますが、家庭的でこぢんまりとした中にも、職員との会話や地域との交流が親密で、温かさが感じられます。グループの中にデイサービス等があり、以前利用していた方が継続して入居することも多く、利用者は慣れた環境で不安なく過ごすことができます。代表者や管理者が医療職であり健康管理や、緊急時の対応についても迅速な判断で行動し、利用者や家族の安心の一つにもなっています。前回の外部評価後の取り組み課題についても、「夜間想定避難訓練」は職員間で話し合い迅速に対応できています。その反省点から、再計画も検討しています。職員間の連携も図られており、利用者にとって安心して暮らせるサービスの質の高いホームとして今後も活躍を期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様、家族や、職員がいつでも目にする所に貼ってあり、理念を踏まえ行事計画や生活の中に取り入れるようにしている。また、運営推進会議や、家族会でも理念をお示ししている。	代表者と共に職員は、自分達が暮らすとしたらを基本に考えた理念に、地域密着型サービスの意義を追加し随所に提示しています。具体的ケアについて職員は統一を図っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会盆踊りや敬老会や環境整理などに参加したり、地域の散歩をしたり庭を見せていただいたりして顔を覚えていただけるよう努めている。	日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の人達と挨拶を交わしたり、声かけが常にあります。また、ホームに来て頂くなど、地域と交流の機会を多く作っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会役員など1部分の人には伝わっているが地域全体とはいえない。しかし町内会が仲が良く、役員の方が職員として働いてくださり、馴染みやすい状況ではある。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価、実地指導結果、研修などで得てきた高齢化社会の動向、徘徊SOS、避難訓練、の対応など、話あったり、訓練に参加していただいている。	ホームの役割や検討事項について話し合う、会議の機会を大切にしています。しかし、開催回数が少なく行政や地域包括センターへの働きかけはありますが、参加には至っていません。	運営推進会議の開催は、地域密着型サービスとしての意義を地域に広く公表し、多くの方にホームをオープンにすることで理解と支援が得られます。幅広いメンバー構成の開催を積極的に働きかけ、定期開催ができるよう期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	積極的には行っていないが、困った時には、相談に言ったり電話で連絡している。	制度についての疑問点の相談や、介護認定更新時のお手伝い、地域包括支援センターとの情報交換など、信頼関係作りを努めています。また積極的とはなっていません。	運営推進会議参加協力は、行政の役割でもありません。地域包括支援センターの担当者と、今後も継続的に日程調整のうえ、参加協力依頼を行い、会議の中でモニター役やアドバイスがもらえるよう期待します。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常にオープンにして外に出る機会を多くし、地域を散歩したり、近所の母子が遊びに来てくれることもある。昨年は学校帰りの生徒さんが一緒に草取りをさせてもらってもいいですかと言って一緒に草取りをしてくれた。最後に一緒にお茶を飲んで帰られたという場面があった。	利用者の権利擁護や身体拘束に関する認識を、管理者を通じて勉強を行っています。小規模なことから職員は十分に目が行き届き、注意深く見守り、声かけをしています。一人ひとりの状態や気分をきめ細かくチェックされ、利用者の安全な生活に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、職員が常に利用者様を思い、明るくて楽しいGHづくりに努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部に研修があるときには参加するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や改定時には必ず説明、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、面会時など日常的に生活状況をお伝えしたり、毎月のGHのお便りを発行し活動の報告をしている。	毎月発行の通信や、面会時のきめ細かな報告を通して、家族との信頼関係を築いています。気軽に意見を言ってもらえるような雰囲気作りにも努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に話をし、課題になっている事は、月1回の定例ミーティングで話し合う機会を設けている。	全体会議・日常の報告・勉強会等で情報を共有し、職員の意見は大切に取上げています。管理者は、常に職員の気づきやアイデアに耳を傾けケア内容や運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・資格取得のための学習に必要な休みがとれるようシフトを考えている。 ・資格取得をした場合には、給与水準を上げ働く意欲を持ってもらえるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のこばやしさんちの全体ミーティングの機会を利用して研修報告や、各部所ごとに担当し、ケアの質向上に対する取り組みを始めた。また、看護師が主体になってケアのトレーニングを行ってきた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会主催などの研修参加を通して交流の機会を作るように努めている。他の事業所のケアの見学など計画したが実践までには至らなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様について家族や利用者様から、生活史をきき、可能な限りその人らしい生活が出来るために、その人の出来る事、出来ない事など、その人の能力を引き出せるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ほとんどがこばやしさんちの居宅介護支援事業所やこばやしさんちのサービス事業所からの紹介が多い為、なじみの関係が作りやすい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の特徴や家族の利用者に対する思いはを入居前や入居当初から良く聞き対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お世話というよりは、昔撰った杵柄で、われわれが教えていただいたり、可能な限り一緒に出来る事を探しながら生活していただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期の病院受診以外は、理。美容院など馴染みの関係を続けていて、家族が大きな役割を担っている。こばやしさんちでは、家族の面会多く、助けられている。面会のない家族には、近況を手紙でお知らせし来てくれた例ある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人が尋ねてきたり、お盆や、家の行事には、外泊をされている。	家族の訪問が多く、関係を大切にしています。また、馴染みの知人・友人の行き来が頻繁にあり、日常的に交流が図られています。自宅への帰省や外泊、遠方の身内へのアプローチも行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様は、周囲や職員の動きや言動を良く見ている他の利用者様にやさしく声かけをしてくれたり、手を貸してくれる場面も多く見られる。たまに、重度の利用者様に対し、批判的な言葉を発する場合あり職員が補っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が入院中に死亡ということが過去のほとんどであり、おくやみに行かせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	課題が1つあります。入浴を寝る前にしたいと希望される利用者様がいますが、対応が難しいのが現状です。暑い日が続いた時にはシャワー浴などしている。	日々の関わりの中で積極的に話しかけ、思いの把握に努めています。言葉や表情から気持ちを推察し、状況の確認や、憩いの時間・食事についても叶えられる様に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔、旅館の食事作りをしていた方や、縫い物・編み物、畑作り等本人の得意な部分を活かす努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が6名という少人数であり1人1人への関わりは多いと思う。ほとんどホールで過ごされ健康状態は把握しやすい。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のその人の暮らしの変化に対し、毎日のように話し合い連絡ノートを利用したり家族には面会時や電話で相談ケアを実施をしている。	利用者や家族と日々の関わりの中で要望や意見を聞き反映しています。記録も大切に扱い、定期的にモニタリング、評価を行い今後の計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特変や気づきは介護記録や連絡ノートへ記入し、職員間での申し送りを行う事で情報共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHの中ばかりでなく、ディサービスや小規模多機能施設との交流をし、より多くの人と触れ合い楽しめるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会との交流等、検討はしているがまだ実行に至っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に関しては、家族や利用者が信頼している病院の受診を継続し、受診介助させていただいている。	入居前の主治医が継続され、定期的に職員が付き添い、受診により健康管理が行われています。ホームのオーナーが医師であり、緊急時の相談や対応が適切に行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきがあればすぐに看護師へ相談、連絡、報告し、指示を仰ぎ適切な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は情報提供書で情報提供をさせていただき病室訪問をし励ましの言葉をかけたり、病棟看護師等から経過を聴き退院時の受け入れをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに関しては主治医、家族と相談、利用者や家族に満足して頂けるようマニュアルの作成をしている。病院とは違い家族と一緒にしかかわることができて大変喜んでいただいたケースがある。	重度化に伴う意思確認書や、対応マニュアルが整備され、事業者が対応しうる最大のケアが構築されています。ターミナルケアについての経験もあり、今後の対応についても随時研鑽しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、急変や事故発生時の対応は、資料や口頭での説明を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した職員1人対応で、消防の方と、地域の方々の協力のもと、避難訓練を行なった。全職員の実践的な訓練はできていないが、普段から避難経路の確認をし、災害対策に努めている。	マニュアルを作成し、年2回消防署と協働し避難訓練を行っています。夜間想定での避難訓練も行い、反省点について検討し再訓練も予定しています。各種研修受講や災害時備蓄、地域との防災協力体制もできています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社内の勉強会で、人格の尊重や言葉かけについて学び、実践できている。	職員は利用者の尊厳を大切に、一人ひとりの気持ちを重視しています。自己決定の場面作り心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けのケアではなくて可能な限り、自分で考え自己決定できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の決まりの中でかなりの柔軟性をもって支援していると思う。体調により個別に食事時間をずらしたり、暑い日が続くと希望を取り入れシャワーをして頂く等支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、家族の協力のもとに美容院へ行ったり、これまでの生活習慣性を続けていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から盛り付け、片付けまで出来る範囲で手伝ってもらえるよう声かけしお願いする事で自分が役に立っているという思いが生活の活力に繋がっている。	家庭的なメニューで、和やかに食事が摂られています。外食や行事食のイベントもあり、食事が平坦にならない配慮もしています。食前食後のお手伝いも活動の一つにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖分、塩分控えめにし、量や盛り付け方も個々にあわせ調整、工夫している。水分量もチェックし声かけ、調整、把握している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけし施行促し見守りを行っている。介助が必要な人には口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	家族から家に居たときの排泄パターンを聞き夜間の声かけ等行ってきた。軽度の尿汚染、便付着はあるものの自分で気づき交換、時には手洗いで洗濯する場面ある。	自尊心に配慮し、さりげない声かけで排泄誘導や対処をしています。トイレでの排泄を基本とし、おむつは使用せず、紙パンツやパットを推進しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスや食材に配慮し、食事作りをしている。リハビリも施行している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の希望に沿った入浴は（時間帯、回数）出来ていないが、暑さの続く時には2回/w→3回/wを増やし少しでも快適に暮らしていただけるような努力はしている。	基本的には週2回の対応としていますが、身体状況や気候に合わせて、柔軟にシャワー浴や足浴の対応を毎日しています。年2回、近隣の温泉へ出かけ利用者の楽しみとなっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにて皆の団欒が基準になっているが、個人の希望や体調にあわせ各自室で休んで頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師がセッティングし注意点は個々の処方箋にて把握している。1人1人確認し、介助している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意分野を把握し残存機能を発揮していただけるように試行錯誤で工夫している。そこには家族の協力もある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、戸外散歩、食材購入等にも声かけ、同行していただいたり、職員の自主的な計らいでひな祭りや車庫でのバーベキューに招待していただき畑に実ったトマトをご馳走になったり、利用者には大変喜んでいただいている。	外出や散歩の機会が多く作られ、ドライブや菜園作りでもきっかけを提供しています。ホームはいつもオープンになっており、道路からは気軽に声かけがされ、地域と溶け込んでいます。系列事業所との交流も、盛んに行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度は本人が持っていてお買い物や、孫、ひ孫に小遣いをあげて喜んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば取り継ぐ		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で談話しやすい広さ。季節に合わせて、飾り物等を変えている。	家庭的な造りと、職員の家族的な関わりが、利用者がリビングやベランダで過ごす時間を多くしています。一緒に作った手作りカレンダーで月の様子が知らされ、利用者の趣味を活かした時間を、ゆったりと過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々の利用者が自分の落ち着ける場所を確保している。1人になりたい時はお部屋で過ごしているが日中はほとんどホールで過ごす事が多い。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れているものを引き続き使う事で自宅感があるように思われる。また、思い出のあるものを持っていることで安心、落ち着く様子。	使い慣れた寝具や家具を使いやすいように配置し、安心の空間となっています。家族や知人の写真や趣味の作品が思いのままに飾られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りの中で出来るだけ自身のことは自分で行ってもらい、必要に応じて介助している。		